

# 令和4年度 山梨県河川マイクロプラスチック調査業務 報告書 概要版

## 1. 調査の目的

県内の相模川水系及び富士川水系の河川におけるマイクロプラスチックの状況調査を行い、調査結果を周知することで、現在世界的に課題となっているマイクロプラスチックに対する県民理解を深めることを目的としている。

### <河川マイクロプラスチック調査を行う必要性>

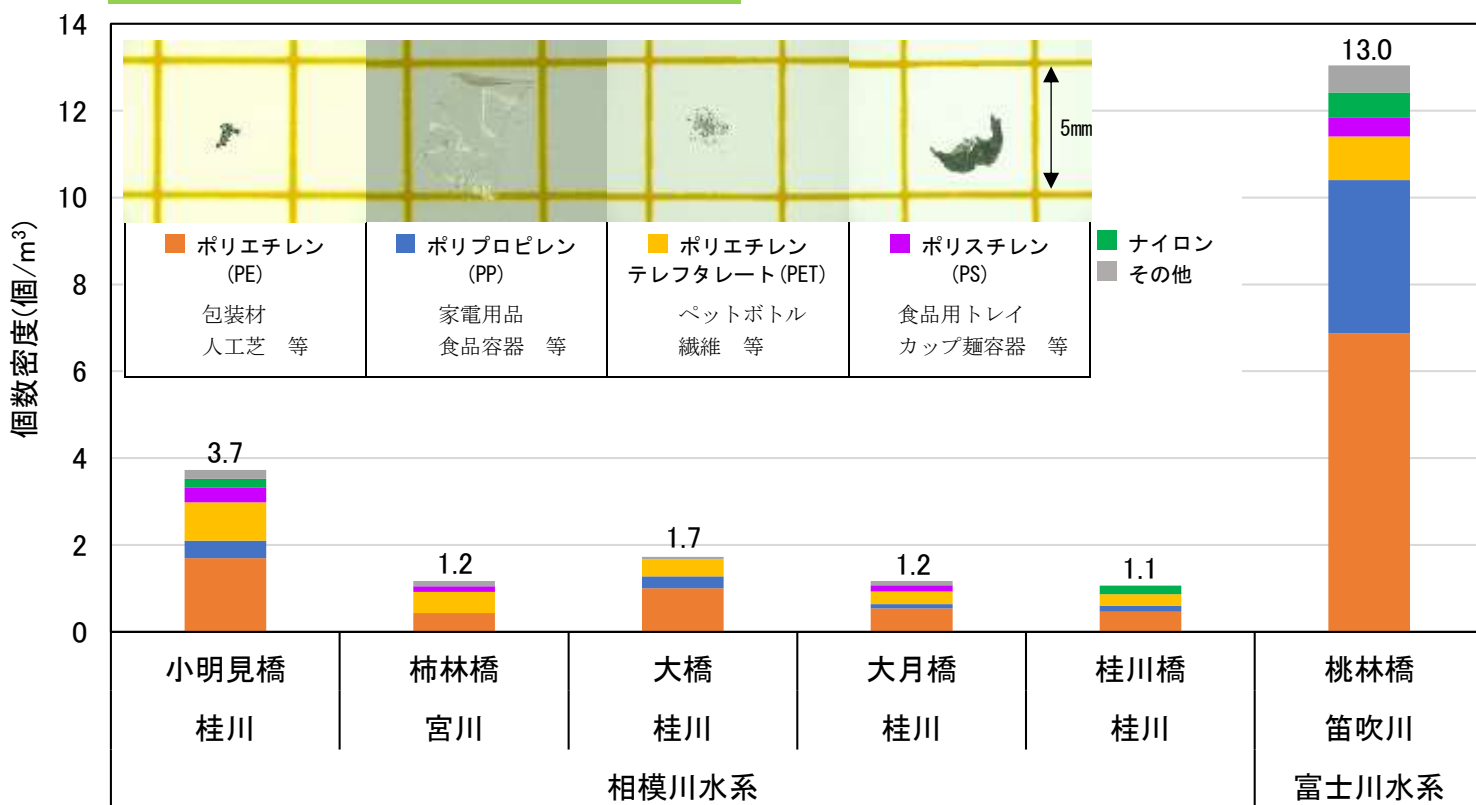
世界中の海域で5 mm 未満の微細なプラスチック類（以下「マイクロプラスチック」という。）が確認され、海洋環境等への影響が懸念されている。我が国周辺海域においてもマイクロプラスチックが確認されており、発生源対策の検討が進められているところである。これらの検討のためには、陸域から海域へ流出するマイクロプラスチックの分布実態を把握することが必要である。

（河川マイクロプラスチック調査ガイドライン 令和3年6月 環境省水・大気環境局水環境課 より引用）

## 2. 河川マイクロプラスチックの分布実態（相模川水系・富士川水系）

### マイクロプラスチックの材質別捕集個数密度

検体採取日：R4. 10. 3～10. 4



### <調査結果概要>

#### (1) 個数密度

##### 相模川水系

桂川上流の小明見橋は、桂川中～下流に比べマイクロプラスチックの個数密度が大きい結果となった。理由としては、小明見橋の上流には多くの観光施設が林立しているためマイクロプラスチックが供給されやすい環境にあることが考えられる。

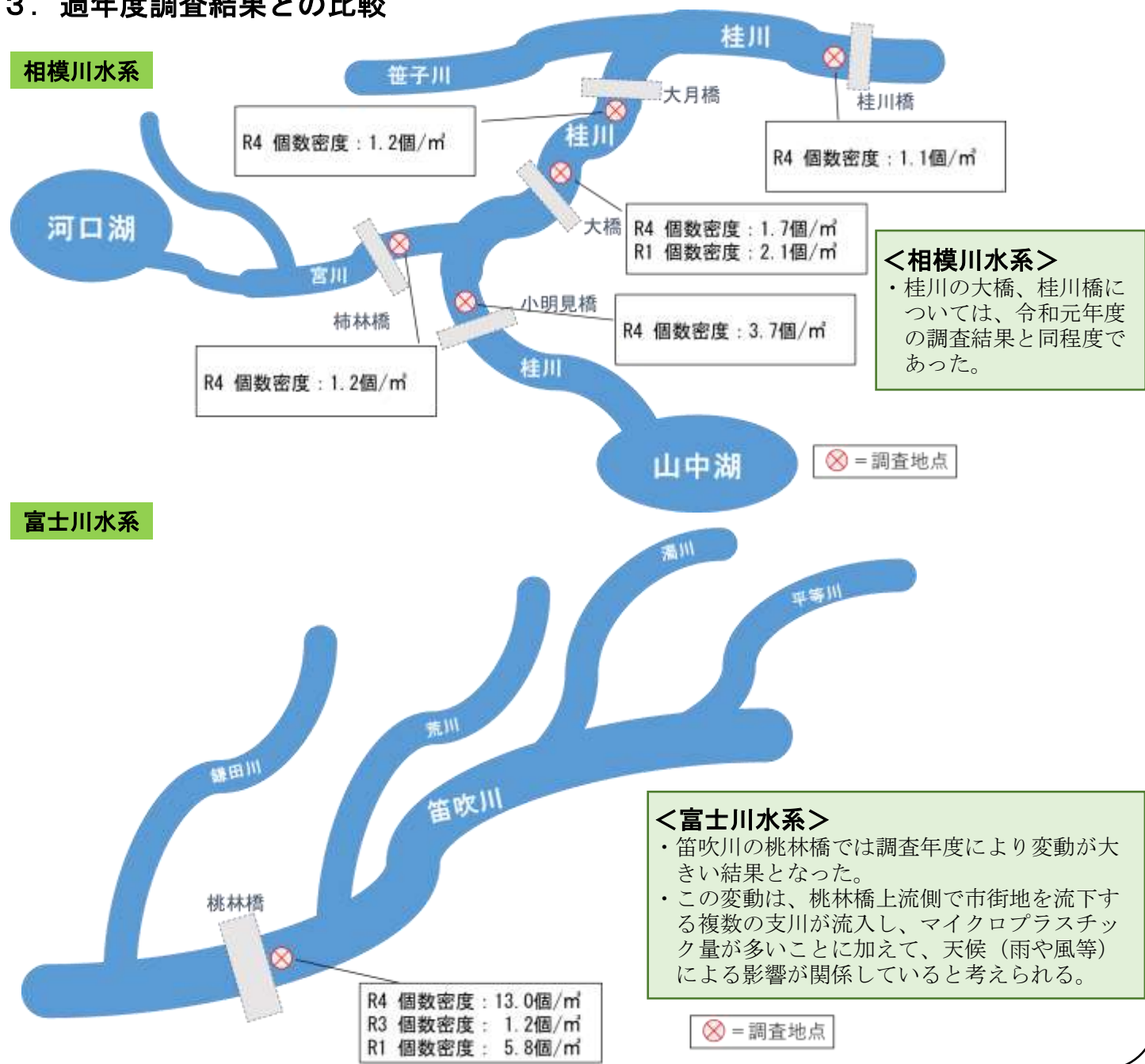
##### 富士川水系

桃林橋で13.0 個/m³のマイクロプラスチックを検出した。これは、桃林橋の上流側で甲府市街を流下する支川からマイクロプラスチックが多く流入しているためと考えられる。

#### (2) 材質割合

各調査地点で確認されたマイクロプラスチックの主な材質は、ポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)、ポリエチレンテレフタレート(PET)、ポリスチレン(PS)であり、PEとPETがほとんどを占めていた。

### 3. 過年度調査結果との比較



### 4. 河川ごみの散乱状況

調査地点周辺においては、①ポイ捨てされたと推測されるごみ、②不法投棄されたと推測される粗大ごみ、③風で飛ばされる等の意図しない流出と推測される飛散ごみが多く確認された。



### 5. 山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画に基づく評価

山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画の効果が現れるまでにはある程度の時間を要することから、今後も発生抑制対策及び環境教育・普及啓発に取り組むとともに、各水系の特徴を把握しやすい調査地点においてマイクロプラスチック調査を継続して実施していくことが必要である。